

2014年8月10日

ブライアン・ブルエット牧師

ピリピ人への手紙：喜びの青写真 #8

OICへようこそ。本日もお越しいただきありがとうございます。今日も引き続き、パウロがピリピの教会に宛てて書いた手紙を学んでいきます。この手紙は、ピリピの教会を励ますものです。この手紙をとおして、私たちは真の喜びをもたらすものが何であるかを見出すことができます。私たちは、神をあがめる教会、聖書の教えに根差したキリスト中心の教会になることを目指しています。皆さんは、キリスト教の教えがこの世の常識に逆らうものであることについて考えたことがありますか。祝福に与るには、祝福を与える者にならなければなりません。愛を受けるには、愛を施さなければなりません。栄誉を受けるにはまず謙虚になる必要があります。自分に死んで初めて、本当の命を生きることができます。導くにはまず仕えなくてはなりません。今日の聖書箇所はピリピ 2:5-11 です。

ピリピ 2:5-11

2:5 あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。2:6 キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、2:7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、2:8 自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。2:9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。2:10 それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、ひざをかがめ、2:11 すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。

上に通じる道は下だと、パウロはピリピの教会の信徒たちに伝えます。偉くなるには低くなることだということです。パウロはすでに、謙虚な姿勢で生きようと信徒たちに語りました。この箇所は、イエスの模範に焦点を当てたクライマックスです。この部分は、イエスが神であることをもっともうまく説明した箇所であると、多くの学者たちは考えています。パウロはこの箇所で、この世の考えとは正反対の生き方をするために必要な決意をふたつ掲げました。

決意 #1 キリストが示された謙虚さの模範に倣う

ピリピ 2:2-5

2:2 私の喜びが満たされるように、あなたがたは一致を保ち、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、志を一つにしてください。2:3 何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。2:4 自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。2:5 あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。

キリストの模範に倣うとは、自分の権利を捨てることです。5節は、先週学んだ1-4節と6-11節をつなぐ橋の役割を果たします。「そのような」という単語は、1-4節に挙げられた内容を指します。パウロは其中で、他の人を自分よりも優れていると謙虚に考え、自分中心ではなくキリストを中心とした考え方をしよう信徒たちに強く勧めます。つまり、自分の姿勢を見直して、キリストの生き方に基づいた生き方をしなさいとパウロは言っているのです。もちろん

んそれは容易なことではありません。私たちは罪人ですから、何度も失敗するでしょう。こう考えてはどうでしょう。私たちが神を信じた時、神は私たちの心に神の御思いを植え付けてくださったのです。聖霊は、私たちのうちに今すでに生きておられます。私たちは人生のすべてを神に支配していただくべきです。ここでひとつみことばを見ましょう。

Ⅱコリント 5:17 だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

聖書を読み、賛美の歌を聞き、信徒同士の交わりに加わって、このような姿勢を育めば、真の謙虚さが形成されていきます。次に、ローマ 12:2 を読みましょう。

ローマ 12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

信仰の成長を促す事柄を毎日続けるのが秘訣です。今日、神に私たちの態度や姿勢を変えてくださいと祈りましょう。恵みと真理における成長を遂げるためです。愚痴っぽい人は、神の視点で物事を見る必要があるかもしれません。この基本的な教えに対し、パウロは6-8節でイエスを模範として挙げました。

ピリピ 2:6-8

2:6 キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、**2:7** ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、**2:8** 自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。

地上に来られる前、イエスは神の御姿であられました。パウロは、キリストが永遠におられたと言います。パウロが言いたいのは、イエスと神のご性質はいっしょであるということです。イエスは父なる神の下におられるのではありません。部下ではないのです。6節の後半は新共同訳では「神と等しい者であることに固執しようとは思わず、」とあります。ここが重要なのです。イエスは何にも固執しておられませんでした。イエスはすでに神の身分をお持ちでした。つまり、イエスはこう言われるのです。「私は神の身分ではあるが、そのことを自分が得するために利用しない。」7節には、「ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました」とあります。イエスは私たちのために、無私と自己犠牲を実践されました。イエスご自身が、上へ通じる道は下であることを示されたのです。あなたが人生のどん底を味わったとしても、イエスはすでにそれを経験済みなのです。8節は、イエスがどれほどまでにご自分を低くされたかが記されています。まさに、十字架上の死です。

決意 #2 イエスが万物の主であることを認める

ピリピ 2:9-11

2:9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。**2:10** それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、ひざをかがめ、**2:11** すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。

9-11 節は、キリストがご自身を低くされたこととキリストが高く上げられたことには因果関係があると語ります。キリストは、すべてのものの上へと上げられました。これは他に例を見ません。イエスはこの世に調子を合わせて生きることはなさいませんでした。むしろ、人々はイエスを嫌い、「罪人や冒涇者とともに食事をする人」と呼びました。イエスはご自身の名声のために生きることもなさいませんでした。父なる神がイエスの名を知らしめてくださいました。10 節では、天、地、そして地獄という 3 つの領域が示されています。天にあるものとは、御使いと、すでに死んで主の御前にたましいが召された信徒たちを指します。地にあるものとは、今生きている人たちを指します。地の下にあるものとは、復活を待つ未信者とサタンおよび悪霊たちです。そのすべてがイエスを主と認める日がいつかやって来ます。

I コリント 15:27 「彼は万物をその足の下に従わせた」からです。ところで、万物が従わせられた、と言うとき、万物に従わせたその方がそれに含まれていないことは明らかです。

このすばらしいことばによって、私たちは気付かされることがあります。今現在、私たちは神を礼拝することを選択しています。しかしいつの日か、すべての人間と霊なるものが神を礼拝します。そのとき、神を信じないと言った人も、神を知ることはできないと言った人も、主にひざまずくのです。この世が今、イエスをあがめなくても、いつかあがめる日が必ずやって来ます。イエスの名をあがめるのに、ふたつの方法があります。自発的にあがめるか、しかたなくあがめるかです。まだ生きている間、私たちには選択肢が与えられています。ですから今日、イエスとの関係について考えることなくこの場所を去らないでください。

結び

驚いたことに、この箇所はおもに信徒に向けられたことばです。パウロが言いたいのはこういうことです。信徒は人生のすべてにおいて、ひざをかがめてイエスが神であることを口で告白する必要があります。生活の中で、神に介入していただいた部分と神に触れられたくない部分が私たちにはあるのではないのでしょうか。神よ、このことは明け渡しますが、あのことは明け渡すことができません、と言っていないのでしょうか。

ローマ 14:11 次のように書かれているからです。「主は言われる。わたしは生きている。すべてのひざは、わたしの前にひざまずき、すべての舌は、神をほめたたえる。」

あなたは生活のどの部分をイエスに明け渡せないでいますか。結婚生活や家庭問題でしょうか。仕事関係、または教会生活でしょうか。あるいはプライベートなことでしょうか。今日、イエスをあなたの人生の全域にお迎えしませんか。このお方は万物の主であり神であられるのですから。